

## 計画事業に係る事後評価記載様式(初年度・2年度目)

### I 総合評価

地域の主体的な取組みと創意工夫による公共交通の活性化・再生を通じ、個性豊かで活力に満ちた地域社会実現に寄与するために適切な事業を選び出し、当該事業を本格実施する環境を整備するための検討を行ったか。

協議会を年3回開催し、地域公共交通、地域の活性化に向けて適切な事業を選び出し、平成21年10月から実証運行を開始した。平成21年11月に当該事業の検証のため、利用者対象のアンケート調査を行った。調査分析結果から、問題点の検証と来年度の実証運行の見直しを行っている。本格実施に向けて、限りある財源を有効活用するため、児童生徒輸送業務等交通関係全般の事業及び、特に、離島住民の生活向上について、関係部署との協議・連携を図りながら創意工夫を行い、持続可能な事業実施に向けて整備を行っている。

**【二次評価】自己評価のとおり。**

### II 計画事業の実施

- ① 事業計画に位置づけられた事業が適切に実施されたか。事業計画に位置づけられた事業が事業計画どおりに実施されなかった場合には、適切な理由等が明らかにされているか。

総合事業計画においては以下2点を目的として位置付けている。1つは住民移動の利便性向上のためのバス・鉄道・離島航路の連携、2つ目は、津久見市全体における経済効果・いきがづくり等地域活性化である。特に、公共交通機関の運行時刻の一元管理や連携は計画の基本方針でもあり、平成21年4月から公共交通機関の運行形態等の検討を行い、10月からは計画通り中央病院～津久見駅線、市内中心部循環線、落の浦～大浜線の3路線の実証運行等、当初計画した事業を実施することができた。11月には、高齢者の通院・買い物需要、利便性等のニーズ把握のため利用者アンケート調査を行い、その結果として、全体的に利用が伸び悩んでいる原因は、PR不足であることが挙げられた。また実証運行と並行し、JR・路線バス・船舶・乗合タクシーの運行時刻及び全路線図を表記した総合的な時刻表(連携時刻表)を全世帯に配布し利用を促した。その後引き続き、市報・ホームページ等で広報活動を行ったが、今年度の調査結果を踏まえた上で、来年度の事業計画の検討を行い、より効果的な事業運営を旨とすることとしている。

**【二次評価】自己評価のとおり**

### III 具体的成果

- ① 定められた評価方法・評価基準にしたがって、評価事項について事業を評価したか。その際、事業の効果・影響とそれ以外の効果・影響を分離して評価したか。

乗合タクシーによる実証運行に関しては、11月に調査員2名体制での利用者アンケート調査を実施した。調査員が乗合タクシー・路線バスに乗り、利用客に直接ヒアリングする形式で調査を行い、利用者の利用状況、要望等を伺っている。その調査分析結果及び日々の乗車人数・推移から、課題を明確にし、効果的な解決策を導き検討している。なお、評価事項において、まだ検証できていない項目があるので、今後追加調査を行い、さらに詳細な評価を行っていくこととする。全体的には、事業の効果・影響と、それ以外の効果・影響を分離して評価している。ほとんどがはじめての取り組みであるので、利便性・アクセス・空白地域の解消等は評価できると考えている。また、それ以外の効果として、観光振興等により来訪者が増加傾向にあり、保戸島航路利用者減少に一定程度の歯止めがかかっていること等を把握している。

**【二次評価】事業の本格実施へ向け、具体的成果を確認することが肝要であり、そのため利用者数など具体的かつ分かりやすい数値目標を系統ごとに設定する必要性についてご検討下さい。**

- ② 実施した事業が地域公共交通に関する目標を達成するために適切な事業であるかどうかを検証したか。

実証運行の路線の中でも、津久見駅～中央病院へ向かう路線は主に中央病院を利用する市民に多く利用されている。この路線での利用者数は開始月の10月では66人、11月は85人、12月は102人であった。離島航路(保戸島航路)からの乗継利用者もあり、バス・鉄道・離島航路の連携、高齢者の通院に対する公共交通の改善という目標については効果が確認できており、適切な事業であると判断している。今後、無垢島航路との連携実証も、島民の生活向上の視点から必要と考えており、継続した取り組みが必要と判断している。市内循環線では利用者数が予定を大幅に下回った。市内部の通院利用を目的としたが実態から見れば再検討が必要と考える。落の浦～大浜線は、路線バス廃止代替線としての役割であり、今後も継続し、調査検証を行う必要がある。今後の方向性を協議会で検討していくが、一部路線を修正し利用促進策を継続することが必要であり、併せて来年度への実施継続の必要性を検証し、利用者の需要に合った柔軟な運行形態を模索していく必要がある。また、連携時刻表についても、利用者からの評価を得ているが、その効果は公共交通の活性化までは至っていない状況である。今後の実証運行の見直しとともに連携時刻表も利用者の意見を反映しながら改良していく予定としている。

**【二次評価】「市内循環線」では、利用者が見込みを大幅に下回っており、来年度の事業実施にあたっては適切な見直しを行った上で、取り組まれることを期待します。**

\* 必要に応じて、参考資料を添付して下さい。

<p><b>IV 自立性・持続性</b></p>
<p><b>1 事業の本格実施に向けての準備</b></p>
<p>① 実施した事業を翌年度実施するにあたって問題点があるかどうかを検証したか。</p>
<p>平成21年10月から開始した実証運行について、乗車人数の把握、利用者アンケート調査を行うなど利用状況を調査した。利用者数が伸びない路線についての原因は、取り組みのPR不足と路線の価値や有効利用方法等が周知されていないことと分析している。市報等に掲載するなどしてさらにPRを行い利用促進を図っているが、アンケート調査結果の分析等を行い、さらなる問題点等の把握に努め問題点を検証している。</p>
<p><b>【二次評価】</b>「市内循環線」では、利用者が見込みを大幅に下回っており、来年度の事業実施にあたっては適切な見直しを行った上で、取り組まれることを期待します。</p>
<p>② 実施した事業について利用者数が想定をかなり下回るなど効果が現れていない場合には、翌年度事業を実施するにあたって必要な見直しを行っているか。翌年度も同じ事業を実施する場合には、適切な理由等が明らかにされているか。</p>
<p>一部路線(市内中心部循環線)で利用者数が予定より大幅に下回っているため、実証運行のPR等の利用促進を行っている。この路線については、問題点を整理し、市内中心部への通院移動等の利便性向上のための新たな路線の構築を検討している。また、アンケート調査結果の分析等を行い、協議会で検証し、今後の計画事業に反映することとしている。来年度は、実証運行調査結果を踏まえ、今後の路線バス事業の動向も注視しながら、より効果的な事業運営を目ざしている。</p>
<p><b>【二次評価】</b>「市内中心部循環線」については、運行開始直前にバス停名にクレームがつき、名称をわかりにくいものに変更せざるを得なかったことも利用者低迷の一因と考えられるので、関係者との前広な調整を期待します。</p>
<p><b>2 事業の実施環境</b></p>
<p>① 当該事業の翌年度実施のための財源について検討を行い、財源の目処がついたか。</p>
<p>平成22年度において、乗合タクシーの実証運行等にかかる財源としては、総合連携事業の補助(国費)のほか、津久見市からの財政支出ということで関係者の合意が形成されており、津久見市の市議会にて審議を行い平成22年3月に決定の予定である。</p>
<p><b>【二次評価】</b>自己評価のとおり。</p>
<p>② 住民等による自主的な利用促進、啓発等の活動や協賛金拠出への協力等当該事業を翌年度実施する環境を整備しているか。</p>
<p>以前は、路線バス維持のため、行政区単位で回数券購入運動的な取り組みがあった。今後は、路線バス継続の自主的取り組み、利用促進への啓発活動、連携時刻表やバス停名称などへの協賛によるスポンサー広告料収入等も検討でき、環境は整っていると言える。また、アンケート調査を通して得られた市民の意見の中には、公共交通に対し事業を行っている市に対して評価している声も多くあり、今後住民と協力した公共交通の施策を展開していく。</p>
<p><b>【二次評価】</b>運行開始直前に医療関係者から、バス停名についてクレームがつくなどしたことから、住民はもとより、市内の企業等に対しても公共交通を維持する意義等を啓発していかれるよう期待します。</p>
<p>③ 当該事業の本格実施のための財源について検討を行ったか。</p>
<p>現時点では本格実施に向けての財源の検討を行っておらず、実証運行の見直しと同時に、来年度から検討を行っていく。</p>
<p><b>【二次評価】</b>国庫補助終了後も持続可能な公共交通とするため、将来の地域負担のあり方(負担の主体は、自治体、交通事業者、地域住民、沿線企業等)についてご検討頂くことが望まれます。</p>

\* 必要に応じて、参考資料を添付して下さい。

<p>V 住民の参加等による地域関係者の実質的な合意形成</p>
<p>① 協議会における審議事項が明確に定められ、計画事業の進め方、実施状況について審議される体制となっているか。</p> <p>第1回協議会により決定された、協議会規約や諸規定により、審議事項や協議会委員が定められており、乗合タクシーを運行する運行事業者をはじめ、住民代表や医療機関、地元の経済界代表も参画している。また、調査事業の実施状況の報告や、連携時刻表作成についての意見などを収集し、当該事業における協議を行っている</p> <p><b>【二次評価】自己評価のとおり。今後も適時・適切な協議会の開催を期待します。</b></p>
<p>② 協議会に住民が参加したり、住民の意見が反映される仕組みが設けられているか（公募制、住民意向調査等の実施が協議会の運営要領において定められているか。）。</p> <p>会議は原則公開であり、傍聴も認められている。協議会委員も、住民代表として、行政区長・高齢者団体代表の参画がある。利用者アンケート調査の結果からも利用者の意見をできる限り反映しており、十分に住民意見が反映できる仕組みが形成されている。</p> <p><b>【二次評価】自己評価のとおり。</b></p>
<p>③ 計画事業を実施するにあたって協議会が適切に開催されているか。</p> <p>平成21年度中に、計3回の協議会を開催した。実証運行、連携時刻表等の内容についての検討を行い、今後の施策に反映するとしている。また利用者アンケート調査の結果についても平成22年1月に協議会を開催し、アンケート調査結果の報告と来年度事業についての検討を行うこととしており、各事業を行う上で、適切に開催していると思われる。</p> <p><b>【二次評価】自己評価のとおり。</b></p>
<p>④ 協議会の議事が傍聴、議事録や関係資料の公開等によって適切に開示されているか。</p> <p>協議会の審議内容については、市長宛報告しており、議事録についても当該規定に則り、議事を公開し随時、市ホームページにて閲覧できる。平成21年2月には、計画素案についてのパブリックコメントを実施し、住民の反響もあり、意見をいただいている。また、平成21年11月には利用者アンケート調査において、路線バス・乗合タクシー利用者約260名にご協力をいただいた。この調査から得られた市民の意見をもとに、来年度以降の実施計画に市民の意見を反映していく。</p> <p><b>【二次評価】自己評価のとおり。今後も継続して議事内容等の公表及び更新を期待します。</b></p>
<p>⑤ 地域公共交通に関する目標を達成するために適切な事業を翌年度実施することについて地域関係者の実質的な合意が形成されたといえるか。</p> <p>協議会において、総合連携計画事業の3カ年計画について、必要な事業費を踏まえながら説明を行っており、掲げる目標とその達成のために必要な取り組みや相互間の連携について合意を形成している。また、11月に実施した利用者アンケートの調査結果、離島住民との懇談、行政区からの意見等を協議会にて検討し、平成22年度のさらなる具体的な取り組み、また計画から変更する箇所について合意を形成していくこととしている。</p> <p><b>【二次評価】今後とも、地域活性化や地方再生の観点から、多様な主体の理解と協力が得られるよう取り組まれることを期待します。</b></p>

\* 必要に応じて、参考資料を添付して下さい。